

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272200799		
法人名	有限会社 グループホームさんぼみち		
事業所名	グループホーム さんぼみち柏		
所在地	千葉県柏市布施新町3-28-20		
自己評価作成日	平成27年1月19日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>閑静な住宅地に平成12年に柏第1号のグループホームとして開設以来、入居者の方々と共に助け合い、協力しながら笑顔あふれ生きがいを感じられ、さんぼみちを我が家と思え、安心して安定した生活が送れるように支援しています。地域の交流にも力を入れています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームさんぼみち柏」は住宅地の中にある民家改修型の施設となっている。施設開設より10年以上が経過しており、地域住民との関係は深く、地域行事への参加や日頃の挨拶・声掛け等を行い、交流を図っている。また、家族との信頼関係構築にも努めており、入居者の日頃の様子を日記のように書いた報告書等を送付し、家族からは好評を得ている。職員同士のコミュニケーションを取るよう努めており、職員の定着率は高く、情報の共有化・密な連携へと繋がっている。その他にも、協力医療機関が近隣にあり、定期及び必要時の往診や重度化における処置及び相談等、密な連携を図っており、家族の安心へと繋がっている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成29年2月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、利用者・家族・スタッフがいつでも見られる場所に掲示しています。ミーティング等に理念の確認及び共有化を図り、理念を意識した支援に努めています。	「安心して暮らせる安定した生活・残存能力を引き出す・尊厳のある生活を守る」を主眼とした施設理念を掲げると共に、スタッフ心得や法令遵守のセルフチェック等を用いて、理念に基づくサービスの提供及び適正な施設運営を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事に参加させて頂き、散歩の時等声を掛け合って、日常的に交流している。駐車場の一角をゴミ置き場として提供している。	地域住民とは、挨拶を交わす関係作りが出来ていると共に、地域行事への参加を通じて交流を図っている。また、施設の敷地の一角を地域のごみ収集所として提供し、地域貢献にも努めている。今年度は、ふるさと協議会から地域の中学生・民生委員が花を贈呈しに来る等、地域との親交を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動に参加し、認知症に関する知識をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告や現状報告を行い、地域の理解の促進を図っている。意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は年4回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・地域住民等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行っており、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋げている。また、避難訓練の報告や防災対策の説明を行い、地域や市への協力要請の呼びかけも行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス・運営に関して疑問が生じた際には、逐一ご相談するよう努めている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行っていると共に、市が主催する研修に参加しており、サービスの質の向上に向けた連携を図っている。また、柏市グループホーム連絡会に参加し、市・同業者との意見・情報交換や空き情報の共有等、様々な形で連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを設置すると共に、基本的には身体拘束はしないケアを実践している。建物の構造上、目がい行き届きにくい死角になっているので、安全確保のために一部施錠をしている。	身体拘束排除における外部研修に参加し、適切な支援に向けた取り組みがなされている。外部研修後は、研修内容を全職員へ周知し、職員への理解促進を図っている。また、法令遵守におけるセルフチェックリストを活用し、正しい支援が行えているか随時確認を行う機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフにはマニュアルを設置し、周知徹底と日々話し合いをし、防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に後見人がいたので、情報を得たり生活保護者にも活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、入居時の不安や疑問点にお答えします。改定のある時は、家族に連絡を取り、不安の内容話し合い、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の際に家族の要望を聞き、また、日々のケアにおいて利用者の意見を聞き取りながら今後の運営に反映されている。家族との信頼関係を作りどんな事でも話せるようにしている。	家族の訪問時・電話連絡時等を活用して、家族の意見・要望を確認している。また、施設での様子を日記のように報告しており、家族から好評を得ている。挙げた意見・要望は、連絡ノート・日誌等を活用して、職員間での周知・検討を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やミーティングの際、意見を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。	毎日の申し送り及び定期的開催する会議にて、職員からの意見・提案を確認している。挙げた意見等は随時経営者に報告をし、現場の意見を施設運営に反映させる仕組みが構築されている。外部研修が人材育成の主たるツールとなっており、研修参加者が内容をまとめ、全職員に伝える等、職員間での情報共有に取り組んでいる。	会議の開催が概ね2～3か月に1回となっているが、今後は定期的に会議を開催するよう努め、情報共有・意見交換の場を確保すると共に、マニュアルの読み合わせ・内部研修・勉強会を行い、サービスの質の向上に取り組んで頂く事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金の有効活用と給与基準を見直し福祉の向上を常に心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記と同じでより多く研修等に参加し、それを活かしている。職員を目指しすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の加入しており、定例会議等で情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より家庭訪問（合意が得られた場合）を行い、本人・家族の十分に聞き取り不安のないよう努めている。特に初期は、環境の変化による混乱・不安等が多くみられるため、常に気を配り、時間をかけて少しずつ慣れて頂けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からどんな小さな相談にも耳に傾け、不安に思われている事や要望等をお伺いし、細々なところまで十分時間をかけ、話し合い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族に対して、今何が必要なのかを模索するため、十分な聞き取り・話し合いを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の知恵・知識を教えて頂き、年長者として尊敬し、支えあって共に生活できるよう支援している。日常生活における家事に積極的にお手伝いして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連絡を取り合い、日常些細なことでもご報告し、ケアについてご相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問はごまれたが、来訪した際はまたの来訪をお待ちしているとの声を伝えている。訪問の際には、家族に了解を得た上で。	友人・知人・家族等の来訪は随時受け付けており、馴染みの関係継続を支援している。また、馴染みの商店の利用・地域行事への参加等を通じて、馴染みの場への外出も支援している。地域で行われるラジオ体操やグループホーム連絡会の合同行事への参加は地域との関わり及び新たな関係の構築等に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の行動を細やかに観察し、利用者同士の相性や人間関係を把握し、席替えやレクリエーションに活用している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も転居先に訪問したり、手紙でのやり取りがある。困った事があれば相談に乗るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人としっかり向き合い、話を聞き、何を望んでいるのか、どうして欲しいかの把握に努め、希望に添える様にしている。また、家族に情報を頂いたりして努めている。	契約時に本人・家族から意向・身体状況・生活歴を確認すると共に、医療機関や他サービス事業所からも情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。また、申し送り・連絡ノート・会議を活用して、入居者の情報を職員間で共有できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を詳しく、家族・本人に頂くようにし、把握に努めている。		

【千葉県】グループホーム さんぽみち柏

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックを毎日欠かさず行い、状態の変化が見られた場合には、まず、オーナーに相談し、迅速な対応をしている。何気ない会話や表情などでも変化等がないか、常に観察している。一日の個人記録を製作し、一人ひとりの生活リズムを把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの希望・意見の聞き取り・ミーティングでの意見を取り入れ、本人に最大の介護が出来るよう、介護計画を作成している。また、心身の状況変化等により、随時、計画の見直しを行う。	会議等を活用し、職員間で検討しながら介護計画を作成していると共に、定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。	入居者・家族の意見を確認した際の記録の見直しを図り、随時確認できるように工夫する事により、全職員が本人・家族の意向を共有しながら検討できる仕組み作りに取り組んで頂く事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を細かく個人記録に記入し、特に大切なことは必ず連絡ノートに記入し、スタッフに確認する事をしている。申し送り・ミーティングなどで共有し、実践を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	暮らしの中で利用者に何が必要なのかを考え、見極めたうえでその時々出来る範囲で柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が定期的に訪問して下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医を中心として、受診支援や定期的な往診、24時間対応の支援がなされている。急変により、通院・往診があれば、その都度オーナーと家族に電話連絡し、対応している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、希望や必要に応じて、職員が通院の付き添いを行っている。協力医療機関が近隣にあり、定期・必要時の往診等にて連携を図っている。看護師資格を所有している職員がおり、医療面・健康管理における相談・助言等にて、協力を得ながら、適切な医療支援に繋げている。	

【千葉県】グループホーム さんぽみち柏

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と往診を含め、連絡は常にとらせて頂き、助言や対応に備えてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は家族対応になるが、情報収集など、常に家族との連絡の中で確認、退院後促しも協力は惜しまない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に来訪時、必要に応じて話し合っている。スタッフ共有し、話し合っている。	終末期における施設方針を契約時・必要時に説明し、本人や家族の意向を確認している。重度化した場合には、往診医・家族が相談する機会を設ける等、関係機関とは意向に沿った支援が行えるよう協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時等の対応マニュアル等で、職員研修を通じ、さらに日常化していきたい。グループホーム協会主催の研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回様々な場面を想定し、自主訓練を行っている。運営推進会議の時に地域の避難場所など、防災についての情報収集をしている。スプリンクラー申請中。	自動通報機・火災報知器・消火器等の消防設備を設置していると共に、年2回の消防避難訓練を実施している。訓練では、夜間・地震を想定した訓練等を行っており、様々なケースに対応した避難方法の確認を行っている。また、防火管理者講習の受講者が複数おり、火災予防に向けた人材育成にも取り組んでいる。今年度は、スプリンクラー設置の計画が進められており、現在、設置工事中となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないよう言葉遣いに配慮し、人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、研修等を通して対応に気をつけている。	理念に「尊厳のある生活」を掲げていると共に、職員心得・法令遵守セルフチェックリストを活用し、職員への意義の浸透を図っている。入浴時・排泄時にはプライバシーへの配慮を徹底し、その人らしい生活の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の話に耳を傾け、スタッフに何でも話せる信頼関係を築くように努めている。自己決定が難しい場合は本人の希望を可能な限りくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな流れが決まっているが、出来る限り、意向に添う様、現状は厳しいが努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意し、清潔な衣類で生活できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみの方も多いため苦手なメニューの場合、その方のみ変更する等、個人の好みを尊重している。家庭的なメニューでおいしいと言っていたり、お手伝いのできる方に無理のない範囲でスタッフと協力している。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまでを共同で行っている。献立においては、随時、入居者の希望を確認しながら作成している。定期的に行事食の提供・手作りおやつの実施を行っており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表に記入し、偏りのない食事づくりを心掛けている。個人記録に摂取の状況等を記録している。水分量についても毎回スタッフが確認している。		

【千葉県】グループホーム さんぽみち柏

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り、必要な方は介助している。スタッフは磨き残しがないよう、チェックしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、個人に合った声掛け・トイレ誘導を行っている。おむつなどの枚数表があり、スタッフ全員把握している。	排泄チェックリストを活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、仕草や状況を観察の上、声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の自立支援に取り組んでいる。食事内容の工夫・乳製品の摂取等を行うと共に、往診医への相談等を行いながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を取り、スムーズな排便を促せるよう対応している。また、こまめな水分摂取や適度な運動、調理メニュー等の工夫等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、その日の体調に合わせて、柔軟に対応。	入居者の希望や体調に応じて、時間や回数を調整しながら適切な入浴機会を設けている。また、必要に応じて清拭・シャワー浴・部分浴も行われており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせた支援を行っている。布団干しは日常的に行い、心地よい安眠に配慮。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送り時や連絡帳を活用し、確認したりし、スタッフの理解を得られるように努力している。服用チェック表を作成し、服用の確認を行っている。		

【千葉県】グループホーム さんぽみち柏

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自に合ったお手伝い・食事準備・清掃・洗濯ものたたみ等をして頂いている。天気の良い日には、公園に出かけ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に公園も多く、四季折々の花等楽しめるため、散歩は日常的に行っている。スーパーに買い物に出かけたり、生協の芋掘りに参加する等、楽しみながら参加できるように心掛けている。	日頃から散歩・買い物等を行っていると共に、ラジオ体操への参加・庭の活用を通じて、戸外に出る機会を設けている。また、地域行事への参加や外出行事の企画・実施を通じて、戸外での楽しみを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため、所持させていないが、必要があれば建て替えで対応する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話したいという要望がないので家族からの電話を受けるのみ。年賀状・季節のあいさつなど、スタッフが見守りながら作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に配慮し、季節の生け花・作品・行事の写真等を飾り、心地よいよう工夫している	民家改修型の施設となっており、入居者にとって馴染みのある造りとなっている。共有スペースには、ソファ・テーブル・椅子等が設置されており、自由にくつろげる環境作りがなされている。施設内の死角を職員間で共有し、入居者の安全確保の徹底に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まる場所から少し離れたところにテーブル・イス・ソファ等を置き、くつろいで頂けるよう工夫している。ゴザ・ホットカーペットなどを使用し、座位の工夫をしている。		

【千葉県】グループホーム さんぽみち柏

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たり・風通しが良く、清潔に心がけ、心地良い様工夫している。家族同泊希望等があれば、状況により可能。	希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、布団を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。天候に応じて、こまめに布団干しを行う等、入居者が快適に生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の持っている力を引き出すような支援をしている。場所の表示をわかりやすく表示。民家改修型で段差などがあるが、自宅と環境が似ているので生活感がある。		